

メッセージ： イエス様と親しく歩むことは永遠の命があることを知ること

OIC の皆様、おはようございます。ようこそ神の家に来られました。

皆様を歓迎いたします。

今日は、引き続き使徒ヨハネの第一の手紙の意味を一節ずつ解釈して明らかにしていきます。聖書全体が聖霊様によって書かれたものです。これまでの使徒ヨハネの手紙 1 からのわたしのメッセージで、ヨハネのクリスチャンに対する教えの意味を引き出そうとしてきました。これは、イエス様と共に親しく歩むことによって、クリスチャンが神様の御心を行えるようにするためでありました。今日のメッセージのタイトルは“イエス様と親しく歩むことは永遠の命があることを知ること”です。

前回のヨハネの手紙 1 からのメッセージで、私はこの書簡の結論に関するヨハネの考えをいくつか紹介しました：

<ヨハネの手紙 1 5 章 13 節>

すでに神の御子を信じているあなたがたにこのように書き送るのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、よく自覚してもらいたいからです。

それゆえ、ヨハネはこの手紙をクリスチャン、つまりあなたのような信じる者たちに向けて書いたのです。ヨハネの書簡は、イエス様の人間性と神性、肉体と血をもって地上に来られた永遠の神様の御子を確認するものです。クリスチャンとは、神様の御子の名、イエス・キリストを信じる人のことです。しかし、クリスチャンもまた、ヨハネが目撃者として信じたのと同じことを信じています！ライフ・アプリケーション・バイブル (LAB) のヨハネの手紙 1 の次の要約が私は好きです：

“（聖霊なる神様が働かれ）受肉によって人間の歴史に入り、神様の御子は肉においてまさに神様の体現者となられた---この手紙の著者である使徒ヨハネによって見られ、聞かれ、触れられた。ヨハネはイエス様と歩き、語り、イエス様が癒されるのを見、イエス様が教えるのを聞き、イエス様が死ぬのを見、イエス様がよみがえるのを見、イエス様が

天に昇るのを見た。ヨハネは神様を知っていた。--ヨハネはイエス様とともに生き、イエス様が働かれるのを見てきた。”

ヨハネは<ヨハネの手紙1 5章13節>に次のように書いています。

あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、よく自覚してもらいたいからです。

ヨハネはクリスチャンが確信していることを勇気づけたかったのです。ヨハネはギリシャ語で「知る」という意味の「オイダ」を使いました。これは、経験によってというよりも、知ることの知識を意味します。それゆえヨハネは、クリスチャンたちが信仰についてより深い理解や知識を持つように、また永遠の命や永遠のいのちを持つことについてより大きな確信を持つように教えるために書いたのです。ギリシャ語の新約聖書で「知る」を意味するもう一つの単語は経験によって知る「ギノスコ」です。

ほとんどのクリスチャンは、イエス様の福音を理解し知ることから新しく生まれ変わります。彼らは永遠の命があることを知っています（オイダ<知ることの知識>）。聖書の学びとクリスチャンの交わりは、このオイダ<知ることの知識>の知識を強化します。しかし、ヨハネがこの書簡の前の方で、次のように書いています<ヨハネの手紙1 3章6節>。

6 ですから、もし私たちが、いつもキリストのそば近くにおり、従順に従うなら、罪を犯し続けたりしないですみます。罪を犯す人々は、真の意味でキリストを知らず（ギリシャ語ギノスコ<経験によって知る>）、キリストのものとなっていないからです。

6 彼のうちに生き続ける者は、罪を犯し続けることはない（ギリシャ語訳）

ヨハネはここでギリシャ語の動詞ギノスコを使っています。これは、経験によって個人的に知ることを意味します。彼はオイダというギリシャ語を使いませんでした。これは知的な、あるいは頭腦的な知識のみを意味します。

だから、罪人がイエス様の真理を信じて新しく生まれ変わるとき、それは経験的な知識というよりも、「善い」頭腦的な知識なのです。この「善い」頭腦的な知識が新しく生まれ変わったクリスチャンとイエス様との関係の始まりです。新しく生まれ変わったクリスチャンは今、配偶者のようなあるいは天国の夫のようなイエス様と婚約しています。新しく生まれ変わったクリスチャンは罪に対する勝利の歩みを学んでいるだけで、ライフスタイルとして罪を犯し続けることはありません。新しく生まれ変わったクリスチャンは罪によ

って最愛のフィアンセ、イエス様から引き離されたくないのです。聖なる婚約です。イエス様とともに歩めば歩むほど、オイダ<知ることの知識>の知識はギノスコ<経験によって知る>の知識となります。

私は、すべてのクリスチャンが、イエス様に対する真の信頼は信仰の試練を通してのみ得られると信じています。そしてクリスチャンのイエス様との関係は、オイダ<知ることの知識>または頭の知識で深まっていきます。さらに、イエス様との個人的な経験、ギノスコ<経験によって知る>または心の知識が増え続けて深まります。これは、クリスチャンであるあなたが永遠の命を持っていることを知る体験的な側面でしょう。20世紀の有名なクリスチャン作家、C.S.ルイスはかつてこう言いました：「本当のリスクだけが信仰の实在性を試す」

だから、これはヨハネが聴衆に向けた次の考えと途切れることなく連動または適合しています。というのも、ヨハネが1世紀のクリスチャンたちに確信を与えた本当の試練は、教会内に「異端者」が存在することだったからです。これらの「異端者」はグノーシス主義の信仰を持っていました。彼らはイエス様への信仰を「告白」したが、それは真実ではありませんでした。グノーシス主義は「霊」は善であり、「肉」は悪であると主張しているからです。だから彼らは、イエス様が肉体をもって来られたので、イエス様が神様であることを否定しました。ヨハネの聴衆は、神様の子の名イエス・キリストを信じる人々でありました。ヨハネは、この異端に対する勝利への確信、信仰を強めていたのです。

次にヨハネは次の節<ヨハネの手紙1 5章14節-15節>でこう言っています。

14 私たちは、神の御心にかなうことを願い求めるなら、いつでもその願いを聞いていただけると確信しています。

15 私たちの願いに確かに神が耳を傾けてくださっているとわかれば、神は必ずその祈りに答えてくださると確信できるのです。

この聖句は、新しく生まれ変わったばかりのクリスチャンにとっては難しい聖句かもしれませんが。新しく生まれ変わったばかりのクリスチャンは、神様の家族に受け入れられた喜びにすばらしいくらい驚きます。当然のことながら、新しく生まれ変わったばかりのクリ

スチャンは神様から良いものを受け取る未来にわくわくしています。ヤコブは<ヤコブの手紙1章16節-18節>で次のように書いています。

16 ですから、だまされてはいけません。

17 すべての良いもの、完全なものは、光を造られた神から来るのです。神にはわずかの变化もくもりもなく、いつまでも輝いています。

18 神は御心のままに、真理のことばによって、私たちに新しいいのちを与えてくださいました。こうして私たちは、神の新しい家族の最初の子どもとされたのです。

神様は、私たちの天の父なる神様の御手から善良で完全な贈り物を受け取ろうとするその善良な態度を冷ましたり、弱めたりすることは決して望んでおられません。しかし、神様は「No(ノー)」と言うべき時、「待つ」べき時、「Yes(イエス)」と言うべき時を知っておられます！神様は、イエス様を通して、たとえ神様が「No(ノー)」と言われたとしても、私たちがご自分の大切な所有物であることを意識し続けられるよう、素晴らしい方法をもっておられます。

しかし、私たちは<ヨハネの手紙1 5章14節>に注目しなければなりません。

私たちは、神の御心にかなうことを願い求めるなら、いつでもその願いを聞いていただけると確信しています。

新しいクリスチャンは、地理的な位置を移動することなく、外国の文化に運ばれた人のようなものです。その意味で、新しいクリスチャンは皆、宣教師のようなものです。その外国の文化とは、クリスチャンの考え方であり、ライフスタイルです。

神様が私たちの声に耳を傾けてくださることを知るためには、私たちは「神様に喜ばれることをどうやって見つけるのか？」というこの問いに答えなければなりません：使徒パウロはローマのクリスチャンたちへ<ローマ人への手紙12章2節>においてこのことを教えました。

この世の人々の生活や考え方をまねてはいけません。むしろ、神に喜ばれることは何かを思いながら、なすこと考えることすべての面で生き生きとした、全く新しい人となりなさい。

ヨハネの手紙1からのメッセージのほとんどで、私はこの手紙が「イエス様とのより親しい歩み」を求めるクリスチャンの願いとどのように結びついているかを強調してきました。これは間違いなく、彼 {神様} を喜ばせる願い求めです。

だから<ヨハネの手紙1 5章15節>のように、

私たちの願いに確かに神が耳を傾けてくださっているとわかれば、神は必ずその祈りに答えてくださると確信できるのです。

同時に、神様は私たちの人生の細部にまで気を配っておられます。日常的な好意や贈り物を神様に求めることを恐れてはなりません。神様は私たちの天の父なる神様です。父親というものは、単に一時的な幸福をもたらすようなものであっても自分の子供に与えて祝福するのが好きです。その違いは、「誰が」贈り物をくださったのかを私たちが知るとき、私たちの愛する天の父との思い出は、祝福よりも長く続くということです。数年前、親しい友人が私をボストン・レッドソックスの野球観戦に誘ってくれました。私には到底買えない席でした。あの試合中、イエス様が個人的な形で現れ、どれほど私を愛してくださっているかを語ってくれたことを、私は決して忘れないことでしょう。イエス様が<マタイの福音書7章11節>で言われたとおりです。

罪深いあなたがたであっても、自分の子どもには良いものを与えたいと思うのです。それならなおのこと、あなたがたの天の父が、求める者に良いものを下さらないはずがあるでしょう。

そうです、私はいつかレッドソックスの試合が観られるようにと神様にお願いしていたんです。

私たちは、クリスチャンが互いのために祈るとき、神様が喜ばれることを知っています。この互いに祈り合うことは、「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」というキリストの命令に従うことです。だからヨハネは、<ヨハネの手紙5章14節>と結びつけるために、この言葉をここに置いたのです。

私たちは、神の御心にかなうことを願い求めるなら、いつでもその願いを聞いていただけると確信しています。

<ヨハネの手紙1 5章16節-17節>に、

16 もし、罪を犯している兄弟を見たら、神に願いなさい。それが取り返しのつかない罪でなければ、いのちを失うことはありません。しかし、死に至る罪があります。そのような罪にはまり込んでいる人に対しては、願っても無意味です。

17 もちろん、すべての悪が罪であることに違いはありませんが、死に至る罪があります。

イエス様を信じる私たちは、私たちが思っている以上に、他のクリスチャンに命を与えるために神様を動かす力を持っています。ヨハネはここで、神様がその人に命を与えると宣言しています。聖書は<ローマ人への手紙 6 章. 23 節>にこう記しています。

罪の支払う報酬は死です。しかし、神が下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

罪との戦いに敗れているキリストの兄弟姉妹にとって、彼らのためにとりなすことは神様を喜ばせ、神様が罪に対して上から助けを与えてくださるようになります。

そしてヨハネは、死に至る罪を犯しているクリスチャンのために祈らないよう、クリスチャンに指示しています。あなたは、「ブルース牧師、その罪とは何ですか？」と尋ねるかもしれません。これは、その意味を正しく引き出すのが難しい節に対する難しい質問です。私の答えは、クリスチャンの典型的な罪のつまずきというよりも、イエス様との関係に関連しているということです。

私は<ヨハネの手紙 1 3 章 6 節>については、次のように述べました。

6 彼のうちに生き続ける者は、罪を犯し続けることはない（ギリシャ語訳）

6 ですから、もし私たちが、いつもキリストのそば近くにおり、従順に従うなら、罪を犯し続けたりしないですみます。罪を犯す人々は、真の意味でキリストを知らず（ギリシャ語ギノスコ<経験によって知る>）、キリストのものとなっていないからです。”

だから、罪人がイエス様の真理を信じて新しく生まれ変わるとき、それは経験的な知識というよりも、「善い」頭脳的な知識なのです。この「善い」頭脳的な知識が新しく生まれ変わったクリスチャンとイエス様との関係の始まりです。新しく生まれ変わったクリスチャンは今、配偶者のようなあるいは天国の夫のようなイエス様と婚約しています。新しく生まれ変わったクリスチャンは罪に対する勝利の歩みを学んでいるだけで、ライフスタイルとして罪を犯し続けることはありません。新しく生まれ変わったクリスチャンは罪によって最愛のフィアンセ、イエス様から引き離されたくないのです。聖なる婚約です。

死に至る罪とは、婚約を故意に破棄すること、あるいは、婚約している花婿であるイエス様に離婚を要求することにちがいません。このことは、クリスチャンが、自分のために血を流してくださった犠牲の小羊なるイエス・キリストとの別離を避けたいという願いが無いことを示しています。これは神様との関係をないがしろにすることとは違います。私たちは皆、「イエス様とのより緊密な歩み」から迷いがちなようです。

<ヘブル人への手紙 6 章 4 節-8 節>には、死に至る罪の警告が同様に記されています。4, 5, 6 あなたがたが、いったん福音（イエス・キリストによる救いの知らせ）の光に浴し、天からの恵みを味わい、聖霊をいただく特権を与えられ、また、神のすばらしいことばと来るべき世界の力を知った上で、なお神に背を向けるとしたら、もう主に立ち返ることはできません。それは、神のひとり子をもう一度十字架につけ、人前でさらしものにする事だからです。そんな人は、もはや悔い改めようがありません。

7 十分に雨を吸い込んでよく潤った畑が、農夫に大豊作をもたらしたとしたら、その畑は神の祝福をむだにしなかったことになります。

8 しかし、いばらやあざみばかりを生えさせるなら、その畑は役立たずとして焼き払われてしまいます。

いくつかのキーワード 特に：--<ヘブル人への手紙 6 章 6 節>：

なお神に背を向けるとしたら、 背を向ける- (NTG 版訳) ギリシャ語は *parapito* : 傍から落ちる、離反する

多くの共産主義国がそうであるように、亡命者は支配者の権威と意思に反して逃亡します。死に至る罪とは、神様の子を拒絶することです。これは婚約している花婿であるイエス様に離婚を要求することです。配偶者の待遇に文句を言うだけではありません。もちろん、私たちの天国の配偶者であるイエス様は、咎めることのない主の中の主です。誠実なクリスチャンは、苦難の中でイエス様に不平やつぶやきを言いたくなるように誘惑されるかもしれません。しかし、誠実なクリスチャンは神様の御言葉が、このような苦難が普通のクリスチャン生活だと告げていることを知っています。誠実なクリスチャンはどんな逆境にあっても、イエス様を喜ばせたいと願います。イエス様に会う時、その苦難の価値はすべて報われることを誠実なクリスチャンは知っています。

<ヘブル人への手紙 6 章 5 節>

あなたがたが、いったん福音（イエス・キリストによる救いの知らせ）の光に浴し、天からの恵みを味わい、聖霊をいただく特権を与えられ、また、神のすばらしいことばと来るべき世界の力を知った

イエス様との離婚を要求する亡命者たちは、実際に神様の善意を味わった後であり、イエス様が彼らのために贖ってくれた、天国に連れて行かれる時代がどんなにすばらしいかを味わった後です。

<ヘブル人への手紙 6 章 8 節>

しかし、いばらやあざみばかりを生えさせるなら、その畑は役立たずとして焼き払われてしまいます。

イエス様に対する裏切り者たちは、神様から実を受け取りましたが、結果として実を結ぶことはありませんでした。クリスチャンに対するこれらの同様の警告は、死に至る罪があるという意味で、<ヨハネの手紙 1 5 章 16 節>に当てはまります。その罪を要約すれば、あなたの赦しと永遠の命を贖うために死んでくださった配偶者であるイエス様との故意の離婚です。神様に愛された後、神様を愛し返そうとしないのは、明らかに無関心なのです！こうして彼らは、神様の福音のすばらしさを味わった後に実を結ぶことはありません。イエス様の権威と地上における王国から離反することは、すべてのクリスチャンが栄光への巡礼の歩みを終えるために必要な恵みを否定することになります。神様は、この世の人生のあらゆる試練や苦しみを通して、クリスチャンに必要な身に余るほどの恩恵を与え続けています。死に値する罪は神様の好意、つまり神様の聖霊様を拒絶します。<ユダの手紙 1 章 24 節>にあるように、神様は不完全な土の器である私たちに必要なすべての助けを約束してくださっています。

あなたがたをつまずきから守り、罪のない完全な者とし、大きな喜びをもって栄光に輝く神の前に立てるようにしてくださる方に、すべての栄光がありますように。

神様は、私たちすべてを御子のように完全で、大いなる喜びをもって、神様の栄光の臨在の中に導くと約束されています！

次にヨハネは、イエス様に支えられているためにクリスチャンが罪を犯さないことに言及しています。イエス様は、「邪悪なもの」に支配され、古い罪深い生活に戻ることを許可されません。<ヨハネの手紙 1 5 章 18 節-19 節>において

18 神の家族の一員とされている人は、罪を犯す習慣はありません。神の御子にしっかりと支えられているので、悪魔は手出しできないのです。

19 私たちは神の子どもですが、回りの世界は悪魔の支配下にあることを知っています。悪者や悪魔はクリスチャンを災難、災害、苦難で脅します。嘘の父である悪者や悪魔の脅しは常に嘘です。神様はクリスチャンの人生において、クリスチャンを強めるために苦難を計画されるかもしれません。悪魔は自分がコントロールする力のないものを自分の手柄にしようとします。神様はクリスチャンの幸福を霊的にも肉体的にも支配しておられます。悪魔の嘘を信じてはいけません。邪悪なものは、全ての試練を通してあなたの忍耐強さを攻撃することにしか興味がありません。悪魔はあなたが苦しい時にささやくかもしれません：「神様を呪って死ね！」と。悪魔の脅しは嘘です。＜ユダの手紙1章24節＞のように、神様の約束は真実です。

あなたがたをつまずきから守り、罪のない完全な者とし、大きな喜びをもって栄光に輝く神の前に立てるようにしてくださる方に、すべての栄光がありますように。

＜ヨハネの手紙1 5章19節＞の節にはこうあります。

私たちは神の子どもですが、回りの世界は悪魔の支配下にあることを知っています。イエス様のご自分の羊である教会の支配によって、悪魔が私たちを取り巻く世界を支配することは許されません。

＜ヨハネの手紙1 5章20節＞

また、神の御子が来て、私たちに真の神を知る力を与えてくださったことも知っています。ですから私たちは、神の御子イエス・キリストによって、真実な方のうちにいるのです。この方こそ、真実の神であり、永遠のいのちです。

神様の言葉であるイエス様は肉体と血になりました。ヨハネは福音書の中で次のように書いています＜ヨハネの福音書1章1節＞。

まだこの世界に何も無い時から、キリストは神と共におられました。キリストは、いつの時代にも生きておられます。キリストは神だからです。

だから、＜ヨハネの手紙1 5章20節＞にはこうあります。

また、神の御子が来て、私たちに真の神を知る力を与えてくださったことも知っています。人々は会話によって理解を得ることができます。人々は互いに言葉を交わします。神様は御言葉を語られました。神様は地上の人々にイエス様を語られました。＜ヨハネの福音書1章14節＞にはこう書かれています。

キリストは人間となり、この地上で私たちと共に生活なさいました。彼は恵みと真実のお方でした。私たちは、この方の栄光を目のあたりにしました。それは天の父である神の、ひとり子としての栄光でした。

クリスチャンは理解があります！私たちクリスチャンがイエス様とともに歩み、御子イエス様との交わりに生きるのです。私たちクリスチャンは天の父なる神様との交わりも持ちます。そして、イエス様とともに歩む信仰者として、悪に囲まれたこの世で私たちクリスチャンはイエス様の保護によって安全です。頭で理解するタイプの知識は、経験型の知識へと成熟します。これこそが、神様が人類に望んでおられる神様との関係です。ヨハネは<ヨハネの手紙1 5章20節>で次のように述べています。

ですから私たちは、神の御子イエス・キリストによって、真実な方のうちにいるのです。この方こそ、真実の神であり、永遠のいのちです。

イエス様はご自分の羊を邪悪な世界から守ってくださいます。イエス様の献身は、イエス様の花嫁にとっての夫のようなものです。教会はイエス様の婚約者のようなものです。婚宴は天国において真に栄光に満ちたものとなります。

ヨハネのこの手紙の最後の言葉は、イエス様を自分たちの人生の主として保つようにというシンプルな戒めです。<ヨハネの手紙1 5章21節>

愛する子どもたちよ。神に取って代わる心の中の偶像から、自分自身を守りなさい。

ヨハネは以前、<ヨハネの手紙1 5章17節>でこう書いています。

もちろん、すべての悪が罪であることに違いはありませんが、死に至る罪があるのです。しかしヨハネは、外見上の罪の行為はただ起こるものではないことを知っていました。もちろん、ヨハネは悪者がクリスチャンを罪に誘惑することを知っていました。しかし、神様は保護を約束しておられます。

<コリント人への手紙1 10章13節>

このことを覚えていてください。あなたがたの生活の中に入り込む誘惑は、別に新しいものでも、特別なものでもないということです。ほかにも多くの人たちが、あなたがたよりも先に、同じ問題にぶつかってきたのです。どんな誘惑にも抵抗するすべはあります。神様は決して、とてもたち打ちできないような誘惑や試練に会わせたりはなさいません。神様がそう約束されたのであり、その約束は必ず実行されるからです。神様は、あなたがたが誘惑や試練に忍耐強く立ち向かえるように、それから逃れる方法を教えてくださいます。

いいえ、ヨハネはユダヤ人の少年として、旧約聖書の預言者〈エレミヤ書 17 章 9 節〉の知恵を知っていました。

人の心は何より欺きやすく、芯まで腐っている。それがどんなに悪質であるか、だれにもわからない。

私は、クリスチャンは外見的な行動よりも、自分の心の中で何が留意されているのかについて、もっと祈るべきだと確信しています。私たちは多くの心の願いを保てます。しかし、私たちは自分の願いをイエス様に告げ、聖霊様にそれらの願いをイエス様の足元にとどめておくよう願わなければなりません。イエス様が私たちの心の王座にいる必要があります。ヨハネは誠実なクリスチャンに対し、あなた方の心の中で神様の座を奪うようなものから遠ざかるよう警告しています。ヤコブが〈ヤコブの手紙 1 章 14 節-16 節〉でクリスチャンに教えたように。

14 人は、自分の欲や悪い考えに引かれて誘惑されるのです。

15 その欲や悪い考えが悪へと駆り立て、ついには、神から永遠に引き離される死の刑罰へと追いやるのです。

16 ですから、だまされてはいけません。

ヨハネは、これらのクリスチャンがイエス様との歩みに確信を持てるよう、クリスチャンを立て上げました。ヨハネは、クリスチャンに深い理解を持つよう勇気づけました。そうすれば、クリスチャンが永遠の命を持っていることを知れます。クリスチャンとしての確信に満ちた生き方への励ましの言葉を数多く残した後、ヨハネは「親愛なる子供たち」に宛てた手紙を閉じます。これは、教会の長老である初代使徒からの父としての愛の表現です。それは警告でありながら、クリスチャン全員への心からの愛でもあります。これはヤコブの手紙の冒頭の書き方に似ています。

〈ヨハネの手紙 1 5 章 21 節〉

愛する子どもたちよ。神に取って代わる心の中の偶像から、自分自身を守りなさい。

ヨハネの励ましの言葉を忘れないでいましょう。

祈りましょう、....